

# 大阪の 社会福祉

2020.3

778

The social welfare  
in OSAKA

- 元気通信 住吉区 遠里小野地域から  
通える範囲にふれあいの場を
- 市社協 職員が主体となつて行動指針を策定  
シカゴの社会福祉 視察研修参加者レポート③
- 施設協 市社協（特集）  
大阪社会事業施設協議会 合同学習会  
二水会・区社会福祉施設協議会  
地域における公益的な活動の実践報告
- 市社協 地域こども支援ネットワーク事業シンポジウム  
こども食堂からみんなの居場所へ
- 市社協 防災を考える「災害復興支援活動写真展」に参加  
西区 障がいあれこれ聞いて聞いて私たちの声パート15
- はじめまして！こんにちは  
NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク（NAH）  
全てのの人に快適な学習・教育・労働環境を！
- 8 7 6 6 5 3 3 2



社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>

## シンポジウム登壇者

講師・コーディネーター：

関西大学 人間健康学部 教授 所 めぐみさん

## ■実践報告1

『「大淀西ニコニコプラン」に基づき

展開している新たな福祉活動について』（北区）

大淀西地域社会福祉協議会 会長

……………山崎 英與さん

大淀西地域社会福祉協議会 理事

……………井上 治美さん

## ■実践報告2

『地域の団体と学生が協働で行う

『みんなの食堂』の取組みについて』（阿倍野区）

晴明丘地区社会福祉協議会 会長

……………石橋 一昭さん

## ■実践報告3

『つながる・安心安全のまちをめざして

見守りは近所付き合いの第一歩

〈全戸アンケート調査の取組み〉（住之江区）

さざんか海の町協議会 会長

……………小高 秀昭さん

海の町地区民生委員児童委員協議会 委員長

……………中川 千鶴さん



市社協は2月5日、中央会館にて「地域福祉シンポジウム」を開催。約150人の市民・福祉関係者が参加した。

今回のテーマは「小地域福祉活動の推進と今後の展開について」。関西大学人間健康学部・所めぐみ教授のコーディネートのもと、北区・阿倍野区・住之江区の実践事例を共有し、住民同士のつながり・支え合いの活動や話し合いの場づくりなど、小地域福祉活動における実践上のポイントを深めた。

詳細の報告記事は次月号に掲載予定。

市社協

## 地域福祉シンポジウム

## 小地域福祉活動の推進に向けて

HB

宮沢賢治に「注文の多い料理店」という童話がある。料理店の注文通りに動いて行くと、裸になって、塩を体に擦り込み、客が調理されそうになるという話だ。先日、福祉のイベント会場のぞいたら、「間違いだらけの喫茶店」というのがあった。

店員が認知症のお年寄りである。注文の多い料理店のようにお客さん向けの注意書が貼ってある。注文通りに飲み物が出てこなくてもお許しください、といける認知症喫茶というのもある。間違いだらけの喫茶店も認知症喫茶も、認知症の人への理解を広げようということだろう。▼核家族や介護保険が当たり前になって、認知症の高齢者と触れ合う機会がほとんどなくなった。その結果、知らないことで差別や虐待につながる危険も増えている。▼「世界一静かな喫茶店」は店員全員が聴覚障がい者。注文するということを通して、聴覚障がい者とのコミュニケーションの練習をしてほしいという意図だろう。▼こうした新しい名前、新しい形態で障がいや認知症を理解しようという試みが、あちこちに現れた。そういう注文なら大歓迎である。

(石)

# 職員が主体となって 行動指針を策定

市社協は、すべての市・区社協職員が担当する業務によらず、社協職員として共通の価値観をもち、積極的に地域福祉を推進していくため、職員行動指針を策定した。今回は策定に至るまでの検討経過やその内容を紹介する。

## 意見シート

約2,000件を集約

これまで市社協では「一人ひとりの人権が尊重されるやさしさとぬくもりのある福祉によるまちづくり」という法人理念はあったが、職員に共通する具体的な行動規範はなかった。そこで、市・区社協経営計画会議の

人材育成に関する取組みの一環として、職員が主体的に参画する形で、本指針を定めることになった。

まずは昨年9月に、市・区社協全職員が「社協職員として求められている役割」についてシートを記入。集まった約2000件の意見を、検討・作業班（4人）のメンバーが整理・分析し、構成案を検討した。



職種・年代を越えて社協職員としての思いを共有（拡大会議）

## 職員間で考え方を 確認するツールに

行動指針が、実際の職員の行動や考え方と効果的に結びつくものとなるよう、11月に検討・作業班の「拡大会議」を開催し、若手職員から経営計画会議のメンバーまで計17人が出席した。

グループ単位で①日頃意識していること（個人で意識している行動指



## 元気通信

住吉区 遠里小野地域から

通える範囲にふれあいの場を  
～おしゃべりや歌を楽しもう～

2月16日

の朝10時頃、遠里小野会館を訪れると、屋内から楽しそうにおしゃべりする声が聞こえてきた。

たところに住んでいる高齢の人たちは、徐々に参加できなくなってきた。そこで、「ふれあい喫茶」から離れた場所にも憩いの場をつくろうと、この「ふれあいカフェ」が始まった。

カフェでは飲み物をいただきながらおしゃべりをするだけでなく、今までにないものを付加している。例えば、ギター伴奏で歌を楽しむコーナー。手作りのクリアファイルにまとめた歌詞を見ながら、懐かしい曲を中心に歌う。ギターを担当するのは3人の地域のボランティア。「楽しみながらすることが、地域の役に立ってうれしい」と

語った。「おしゃべりする相手がいない時も、歌って楽しい時間が過ごせる」と参加者にも好評だ。

また、地域包括支援センターなどが福祉何でも相談コーナーを設けている。そのほか、近隣の学生の演奏に耳を傾けたり、手作りのものを楽しんだり、地域の医師の話を聞いたりと、さまざまな企画をしている。

それぞれのペースで過ごせて居心地がよい



手作りの歌詞カードファイル

遠里小野地区民生委員長の  
大谷内和子さんに話を聞いた。カフェを始めるにあたり、まずはお手伝いをしてくれるボランティアを探したそう。これが思ったよりスムーズにいき、声をかけたほとんどの人から二つ返事でOKをもらいました。その結果、あつという間に15名ほどが集まったという。「多くの人がボランティアをしたい気持ちを持っていることに気づき、心強く感じました」。ボランティアの人たちは「大谷内さんなら安心して協力できますね。できる範囲でサポートしています」と話す。カフェで培われた、ちょっとした親切、やさしさ、おせっかいな、これからも地域の元気につながっていくと期待される。



大阪市社会福祉協議会・区社会福祉協議会  
職員行動指針(大項目のみ)

- 1 私たちは、住民一人ひとりが、排除されることなく、その人らしい、つながりある暮らしを実現できるよう、困りごとを受け止め、寄り添い、尊厳と自己決定を尊重し、支援します。
- 2 私たちは、互いに支え合える地域づくりに向け、積極的に地域に出向き、住民の地域福祉活動への参加・参画を広げ、住民主体による地域福祉活動の実施とその継続・発展を支援します。
- 3 私たちは、地域福祉にかかわる人々と多様な団体・組織が、地域の福祉課題を共有し、その解決に向けて、連携・協働により取り組めるよう支援します。
- 4 私たちは、自己研鑽を重ね、チームワークを大切に、複雑・多様化した福祉課題の解決に向け、創意工夫を持って業務を遂行し、信頼される社協職員をめざします。
- 5 私たちは、法令を遵守し、地域住民・関係団体にとって、地域福祉を推進するパートナーであり続けるよう、対話を大切に、その存在意義や役割が広く認識されるよう常に自覚をもって行動します。
- 6 私たちは、災害発生時においても、住民一人ひとりができるかぎり早期にふだんの暮らしを取り戻せるよう、組織の役割を理解し、日頃から意識と知識を持って、支援します。

詳細は  
市社協HPに掲載



針)、②市・区社協の中でまだ十分に根付いていないと思うこと(今後強化すべき点)を議論。さらに③指針について、どのように活用・浸透していくことができるかについても話し合い、「新たに入職した職員に伝えるツールに」「会議や研修と関連づけて、組織全体の動きに」などの意見があった。

検討をふりかえって、出席者からは「社協としての仕事に誇りを持ち続けたい。指針が決まってからも継続的に検討や見直しをして取り組んでいきたい」「相手を受け止め、必要に応じて選択肢を提示し、自己決定ができるよう寄り添った支援をす

今年1月、経営計画会議を経て、6つの大項目からなる職員行動指針の内容が確定した。新年度から全職員が、策定した指針のもと、日々の職務にあたりていく。

指針の全文は市社協ホームページで公開している。

生きた指針としての  
活用・浸透に向けて

ること。選択肢が少ないのであれば広げられる取組みを進めることが必要で、それは社協だからこそできることだと感じた」といった声が寄せられた。

# シカゴの 社会福祉

視察研修参加者レポート③



## 「移民を支えるシカゴにある『日本』Heiwa Terrace」

社会福祉法人 大阪市西成区社会福祉協議会 地域支援担当 修田 翔さん

シカゴは全米第3位の規模の都市ですが、歴史的に都市の形成に多くの移民があつたことが特徴的です。現在においてもヨーロッパ系、アフリカ系、アジア系さまざまな人種が暮らししています。Heiwa Terrace(平和テラス)は、日系移民コミュニティにより設立された高齢者住宅です。現在は日系に限らずアジア系を中心にさまざまな人が入居しており、日本語、韓国語が使えるソーシャルワーカーが常勤しています。



入居者が制作した作品を展示

Heiwa Terraceは低所得高齢者向けの住宅として州の補助(公金)が入っており、メディケイド(低所得者向け医療保険)受給者も入居しています。移民は受給できる公的年金が少なく、高齢者は困窮状態に陥りやすい問題があります。イリノイ州でのSSI(補足的所得保障・高齢者や障がい者など収入が限られる人への補助)は月に733ドル(約8万円)となっており、それだけでは十分な生活を送れるとはいえません。厳しい状況にある移民の支援には、Heiwa Terraceのような住宅支援は必要です。

訪問した日には生け花教室がおこなわれており、入居者の方は思い思いに作品制作に取り組みました。日本から移住して40年、50年という方もおられ、「日本語はだいぶ忘れてしまったけれど、今でも日本は好きです」と話されていました。Heiwa Terraceでは施設においても、高齢者が長年親しんだ生活習慣・環境を変えずに過ごすことができます。施設内で発行される入居者向けのニュースレターも英語、日本語、韓国語、ロシア語、中国語で用意されているなど、入居者にとって必要な配慮がとられていました。

大阪においても外国からの移住者が年々増加しており、今後もさまざまな文化的背景をもつ人が暮らししていく状況にあります。異なった文化をもつ人たちが同士と一緒に地域生活を送っていくために、相互理解をはかり「多文化共生」をめざしていくことが重要です。すべての人が安心して暮らしを営むことができるよう、ソーシャルワーカーとして地域への働きかけをおこなっていききたいと感じました。

訪問した日には生け花教室がおこなわれており、入居者の方は思い思いに作品制作に取り組みました。日本から移住して40年、50年という方もおられ、「日本語はだいぶ忘れてしまったけれど、今でも日本は好きです」と話されていました。Heiwa Terraceでは施設においても、高齢者が長年親しんだ生活習慣・環境を変えずに過ごすことができます。施設内で発行される入居者向けのニュースレターも英語、日本語、韓国語、ロシア語、中国語で用意されているなど、入居者にとって必要な配慮がとられていました。



ソーシャルワーカーさん、生け花の先生と一緒に

## 特集

### 施設協 市社協

### 大阪市社会事業施設協議会「一水会」区社会福祉施設連絡会合同学習会

# 地域における公益的な活動の実践報告

平成28年の改正社会福祉法の施行に伴い、社会福祉法人の公益的な取組みが責務として明記され、各社会福祉法人において、さまざまな取組みが展開されています。

各社会福祉法人が地域等で求められている使命や役割を改めて認識し、今後さらに地域における公益的な活動を推進していくことを目的に、1月30日、大阪市社会事業施設協議会「一水会」区社会福祉施設連絡会合同学習会を開催し、施設職員や社協職員など95人が参加しました。

#### 〈報告3〉此花区から

クラフト株式会社  
さくら薬局大阪西島店  
管理薬剤師 安野嘉人さん

此花区社会福祉協議会  
地域支援担当  
鹿島諒さん

社会福祉法人  
ラヴィータウーノ  
副施設長  
中川春彦さん



社会福祉法人亀望会  
江之子島コスモス苑  
地域支援部部長  
小幡誠司さん

桃山学院大学  
教授 小野達也さん

福島区社会福祉協議会  
地域支援担当管理者  
河元義和さん

社会福祉法人亀望会  
江之子島コスモス苑  
副施設長 今西里奈さん

社会福祉法人麦の穂  
玉川ひばりこども園  
園長 角上美恵子さん

〈報告1〉  
西区から

〈報告2〉  
福島区から



各法人の実践報告に聞き入る来場者

冒頭、大阪市社会事業施設協議会の倉光慎二会長は、社会福祉法の改正に伴い、各法人において公益的な取組みが展開されているなかで、「さらに活動が推進できるよう、実践報告から刺激を受け、明日からの取組み

への活力にしたい」と期待を述べました。

#### 〈報告1〉西区

優しい心が  
すくすく育つ

～世代間交流で共活共助～



こどもたちにわかりやすく職員が寸劇を披露(報告1)

あの「優しい心」を育むために、地域の保育園などに出向き、啓発活動をおこなっています。取組みのきっかけは、施設に遊びにくる近隣の保育園の子どもたちがみせる「高齢者とのスキンシップへの戸惑い」でした。そこで、法人内の各部署から選出された職員からなる「地域貢献委員会」で検討し、施設から保育園へ出向き、高齢者体験や寸劇を通じて、高齢者や特養を知ってもらうという取組みをはじめました。

その結果、こどもたちが施設を訪れた時、高齢者と自然に交流できるようになりました。今西副施設長は「どうしていいかわからないということも私たちの思いを優しい気持ちに変化できたこの取組みの意義は大きい」と話します。

職員の気づきから、今では法人全体の取組みとなり、訪問先の保育園も増加しています。「西区内では保育所・園が増加傾向にあり、今後もこの活動を西区全域に広げ、優しい心を育む世代間交流で『共活共助』を実現したいと思います」と締めくくりました。



## 〈報告2〉 福島区

### 福島区社会福祉施設 連絡会の地域貢献活動 動について

福島区社会福祉施設連絡会では、保育所・園の保育士の子育てサロンへの訪問、高齢・障がい福祉施設職員の小・中学校での福祉教育、職員向け研修会をおこなっています。また、特徴的な取組みとして、区内の各施設で、小中高生の夏休みボランティア体験の受け入れをしています。



中学生が保育園でボランティア体験(報告2)

まず、事務局は福島区社協が担っており、地域のニーズ把握、仕組みづくりなど、さらなる活動の充実をめざしています。次に、地域の子育て支援拠点である玉川ひばりこども園から2つの活動報告がありました。一つは、園庭開放時の子育て相談時に受けた、軽度の発達障がいのため、集団行動が難しく、他区の施設で退園となったことと母親のケースです。結果、こどもを幼稚園で入園してもらい、母を乳児クラスのボランティアとして受け入れたことで、母子ともに見守り・支援につながった例です。もう一つは、近隣公園の清掃活動です。時間帯など試行錯誤しながら、活動を通して「どんなことをしたら感謝されるのか」等こともは自然に学ぶことができました。

角上園長は「困っている人がいたら手を差し伸べる、その人が喜びを感じることができるよう努力をすることが社会福祉法人の務めである」と、地域貢献の原点を語りました。

## 〈報告3〉 此花区

### てへぺろキッチン つくり方

「認知症によるまちがいが許される地域づくりをめざした広域的な連携」

「てへぺろキッチン」は、認知症当事者の方々がホールスタッフをつとめるレストラン。きっかけは、特別養護老人ホームラヴィータウーノの中川副施設長が、SNSで「注文をまちがえる料理店」(東京都)という取り組みの中で、利用者がいきいきと働いている姿をみて「やっ



和やかな雰囲気です自然と笑顔が生まれます(報告3)

てみたい」という思いを抱いたことでした。実際にはオーダーまちがいがありませんが、お客さんはあたたかいまなざしで、その場をともに楽しみます。「まちがえても笑顔で認めてもらえる環境をつくることで、本人や家族も、地域の人たちも『周囲の理解とサポートがあれば認知症になっても恐れることはない』ということに気づける」と話しました。

てへぺろキッチンの運営は、福祉施設、企業、ボランティアグループ、区社協など、さまざまな団体が協働しており、つなぎ役は此花区社協が務めています。構成団体の一つ、薬局を展開するクラフト株式会社は、企業からみた地域活動のメリットについて「薬剤師に薬局以外の場所で活躍できる場を提供でき、専門性を活かした薬剤師を育成するうえでもよい機会となっている」と述べました。また、企業側からの意見として「企画の段階から企業と協働することで積極的な参加意識を生む」というポイントを伝えました。

### 地域に生み出す 福祉実践とは

「増進型のアプローチで」

実践報告の後は、桃山学院大学の小野達也教授から、地域公益活動をよりよくするための新たな方法「増進型アプローチ」について講演がおこなわれました。2000年以降、格差社会、多様な生活課題の解決が求められていくなか、社会福祉は「公的な制度・政策」から、「地域福祉の主流化・政策化」へと進められています。

「これからの福祉」幸せをつくることをキーワードに講演がすすめられ、社会的排除・貧困・介護等の基本的生存保障から、個人の自己実現と地域社会の継続発展へ向けて、幸福実現を志向する増進型地域福祉という新しい福祉のあり方を示しました。「それぞれが『こうなったらいいなあ』という理想を描き出し、さまざまな団体との協働による実践によってその実現に向かう」と語られました。

今回の取組みから、さらに公益的な活動をすすめるための新たな視座やヒントが共有できました。市社協として、今後このような取組みを通して、新たな公益的な活動に踏み出す社会福祉法人の増加につなげていければと考えています。

## こども食堂からみんなの居場所へ

「だれもが安心して暮らせる大阪をめざして」

阿倍野区民センター大ホールで1月19日、地域こども支援ネットワーク事業シンポジウムが開催された。テーマは、こども食堂からみんなの居場所へ「だれもが安心して暮らせる大阪をめざして」。会場には、こども食堂の関係者や、関心のある人々が253名集まり、熱気にあふれていた。

第一部では映画「こどもしようどう」が上映された。育児放棄の母子家庭で暮らすこどもや、河原で車中生活をする姉妹が登場し、地域との関わりや支援のつなぎ方など改めてこどもの居場所について考えさせられる映画だった。

第二部では、社会活動家であり、東京大学特任教授の湯浅誠さんによる講演がおこなわれた。湯浅さんは、こども食堂の主流は多世代交流型であり、継続的に必要とされる場所になるには地域の交流拠点をめざすべきと強調した。

次に、特定非営利活動法人西成チャイルドケアセンター代表理事の川辺康子さんによる活動報告がおこなわれた。2012年にこども食堂をはじめた川辺さんは、市民交流センター、にしなみ隣保館へと拠点を移し、現在は市営住宅の一室で開催しているという。開始当初は持ち出しも多くあったが、今では支援の輪が広がり、本当に感謝していると語った。

続いて、湯浅さん、川辺さんに、大阪市ボランティア・市民活動センターの上野谷加代子所



「こどもの居場所活動の未来について」鼎談

## 市社協

## 防災を考える

## 「災害復興支援活動写真展」に参加

1月27日～30日にかけて、大阪市役所本庁舎正面玄関ホールで「災害復興支援活動写真展」が開催された。この写真展は、

長が加わり、鼎談<sup>ていだん</sup>がおこなわれた。上野谷所長は「こども食堂に関わっている人たちのエネルギーをみんなのものにすることがこのシンポジウムの目的の一つ」と話し、2人の原動力について質問。湯浅さんは「困難の中にドキドキワクワクがある」と語り、川辺さんは「地域の力

を取り戻したいという思いが背景にある」と話した。また、新しい拠点づくりに熱心に取り組む川辺さんは、「10年間の活動の中で、シンボリックな拠点の必要性を強く感じた。こども食堂は、こどもだけでなく親の育ち直しの場にもなる」と語った。また、マスコミでよく取り上げられるSDGsについて上野谷所長が言及すると、湯浅さんは「国連で策定された持続可能な開発目標であるSDGsの趣旨は、こども食堂にも合致する。」

自信を持ってこども食堂に関わってほしい」と語った。3人がこども食堂へのさらなる協力や参加を呼びかけ、シンポジウムは締めくくられた。

地域共生社会の実現をめざし、大阪市全体でこども食堂や、だれもが集える居場所の充実、また住民に身近な圏域でのネットワークづくりの意義をとらえ、理解を深めることを目的として開催されたシンポジウム。参加者は多くの気づきを得られた一日となったようだ。

号発災時の大阪市内での被災者支援の様子などを掲載した。

写真展初日には開会式が催され、大学生からのボランティア活動報告や地域防災市民劇団によるミニ・シアター、市内の小中学生による合唱、自衛隊音楽隊等による復興祈念コンサート等を通して、自分たちで安全を守っていくことや、復興のためには協力が不可欠である意識が参加者間で共有され、小中高校生から防災宣言がなされた。

写真展は、本会のほかに自衛隊や他府市の社協、NPO団体や電力会社なども出展しており、500枚を超える支援活動の写真が展示されていたが、熱心な活動の一場面を通して、人と人とのつながりの力を感じる場となっていた。



市社協HPにもポスターデータを掲載

特定非営利活動法人全国災害復興活動支援機構が主催し、全国各地を巡回しながら、災害支援・復興支援にあたるさまざまな団体の写真を中心としたパネルや防災機器等を展示している。

今回は関西初の開催で、本会もこの写真展に参加し、パネルを展示した。パネルには、長野市へのボランティアバス運行時のボランティア活動の様子や岡山市・郡山市での災害ボランティアセンター運営支援の様子、大阪府北部地震・台風21



## 障がいあれこれ

「聞いて聞いて私たちの声パート15」

西区では2月6日「西区社会福祉講演会 障がいあれこれ」聞いて聞いて私たちの声パート15」が開催された。

15回目となる今回は「防災」を切り口に、障がいや高齢分野の支援者、民生委員や見守り員、連合振興町会・社協会長、女性会など地域住民等、総勢125名が西区民ホールに集った。第1部は、認定NPO法人ゆめ風基金の八幡隆司さんによる講演会「過去の災害事例から学ぶ障がい者・児や高齢者はどんなことに困ったか」。災害発生時は障がい者や高齢者（要援護者）は取り残されや



和やかな雰囲気、熱心に語り合う参加者

すい。避難所での環境に適応できなければ、やむを得ず被災した自宅や車で生活することとなる。災害計画や防災訓練の段階から要援護者が避難所に来ることを想定して欲しいと語った。第2部は、「みんなが過ごしやすい避難所づくりを考えてみませんか？」をテーマに、グループに分かれ、避難所運営をシミュレーション形式で考える。小学校を舞台に要援護者を受け入れるにはどの場所が良いのかを話し合い、模造紙に書き込む。八幡さんの進行により真剣で和やかな雰囲気が進んでいった。

聴覚障がいがある当事者からは「地域の情報が入りにくく、避難訓練に参加したことがない。情報を得るにはどうすればよいか」と質問があった。同席していた西区地域振興町会の笹倉和忠会長は「地域行事は町会がよく把握しており、日頃から町会とつながってもらえると嬉しい」と回答し、八幡さんも「災害時に一番頼りになるのは地域住民。障がいの有無にかかわらず誰もが普段からつながることが大切だ」と語った。

介護職員の人員不足が言われ始めて、かなりの時間が経過している。しかし、この問題は、ますます深刻な状況となっている。介護職員については、離職率も高く、また、人員確保も難しい。特に、深刻な状況がホームヘルパー（訪問介護員）の状況である。現在のホームヘルパーの人員不足は、かなり深刻で、多くの事業所でホームヘルパーの求人がなされているが、充足されることは、ほとんどないと言われている。

令和元年現在、全国のホームヘルパーの有効求人倍率は、13・1倍である。これは、ホームヘルパーという仕事を求めている人は、1人であるのに対して、ホームヘルプサービスの事業所は、13人以上の人を求めていることを示している。介護職員以外の一般職での平均有効求人倍率が、1・46倍で、介護職員全体の平均有効求人倍率が3・95倍である。介護職員全体の傾向として、ホームヘルパーは、非正規雇用であることが多く、離職率も高い傾向にある。さらに、経験年数が少ないホームヘルパーの離職率は、非常に高いとも言われている。

ホームヘルプサービスは、要支援・要介護高齢者の在宅生活を支える基幹的なサービスであり、今後の地域包括ケアシステム構築においても、非常に重要な在宅サービスである。在宅サービスや地域包

## ホームヘルプサービスの慢性的な人員不足

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 教授 岡田 進一

有効求人倍率でも、その数値がかなり高く、人材確保が非常に難しい状況にあると言われているが、ホームヘルパーの有効求人倍率は、介護職員全体の約3倍、一般職の約9倍である。

「介護労働実態調査」によると、ホームヘルパーの人員不足の主な要因として、賃金の低さ、身体的・精神的な仕事の厳しさ、社会的評価の低さ、休みのとりにくさ等があげられていた。また、一般的にケアシステムの持続可能性を高めるためにも、ホームヘルパーの確保とその待遇改善は、急務であり、ホームヘルパーが超高齢社会を支える重要な職業として社会に強く認識される必要がある。

## 風をよむ

「介護労働実態調査」によると、ホームヘルパーの人員不足の主な要因として、賃金の低さ、身体的・精神的な仕事の厳しさ、社会的評価の低さ、休みのとりにくさ等があげられていた。また、一般的

NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク(NAAH)は、2001年より大学、大学院、専門学校など高等教育研究機関におけるハラスメント(アカハラ、パワハラ、セクハラ等)の防止に取り組んでいます。主な活動は相談支援と啓発です。相談支援では、電話相談を受け付け、学生、大学院生、教職員等から相談が寄せられます。啓発活動として、大学等での講演や、DVDの製作・販売もしています。他にもNAAHでは相談員研修、そして居場所づくりプロジェクト「なあなあ」もおこなっています。

めのない話をする中で、ふだんの生活の様子や好きなことや得意なこと、悩みごとなどお話しください。参加者の方に先生になってもらい生け花やハーブの遊び、時には笑いヨガにもチャレンジしています。異なる立場の参加者の皆様との交流の中で、問題解決につながる手立てや、より生きやすい暮らしのためのヒントを見つけていただけるよう努めています。

学生だけではなく、保護者や教職員、支援機関の皆様にもご参加いただける特別企画や勉強会もおこなっています。また、個別の相談支援もおこなっています。

はじめまして！  
いんにちは♪

NPO法人のご紹介

## 全ての人に快適な学習・教育・労働環境も！ NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク(NAAH)

居場所「なあなあ」は、NAAHの相談活動の中から生まれました。相談を通して発達障がいのある学生が抱える困難を知り、学生や若者を対象にした居場所「なあなあ」を2018年6月から、月2回(第1と第3土曜日の午後、場所はNAAH事務局)開催しています。コミュニケーションや対人関係、学校や家庭での困りごと、将来の悩みなどさまざまな生きづらさを抱えておられる方々にお越しいただき、ほっと安心していただける居場所づくりをおこなっています。お菓子を食べながら、とりと

発達障がいのある学生にとって快適で充実した環境で学ぶことのできる大学・学校は、すべての学生にとってもハラスメントのない良好な学習環境であると考えています。ぜひ安心してご参加ください。



(事務局) 〒530-0044 大阪市北区東天満2-9-4 千代田ビル東館507号室  
TEL 06-6353-3364 E-mail [office@naah.jp](mailto:office@naah.jp)  
HP <http://www.naah.jp>

## 介護保険サービスなどの苦情相談窓口 おおさか介護サービス相談センター

介護保険給付サービス等を利用している大阪市内の利用者やそのご家族、サービス提供事業者から、電話や来所等による相談に応じています。

【連絡先】 06-6766-3800  
【相談日時】 平日の午前9時～午後5時  
(土曜・日曜・祝日、年末年始を除く)

立ちどまらない保険。  
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

クルマの保険 火災の保険 がんの保険

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

## 令和元年度共同募金のお礼と報告

令和元年度(第73回)共同募金運動は、府民の皆様のご理解ご協力ならびに関係団体等の並々ならぬご尽力により、別表のとおりの実績で終了いたしました(住吉地区募金会、岸和田地区募金会、松原地区募金会では、3月末までテーマ型募金運動を実施中)。皆様のご支援に厚くお礼申し上げます。

お寄せいただきましたご寄付は、配分委員会、理事会、評議員会で慎重に審議の上、民間社会福祉事業の推進、地域に根ざしたさまざまな福祉活動の支援等に役立ててまいります。今後とも共同募金運動の発展に、一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 社会福祉法人 大阪府共同募金会

| 区 分       | 元年度実績額(円)   |
|-----------|-------------|
| 戸別募金      | 305,768,716 |
| 法人募金      | 56,742,288  |
| 学校募金      | 9,577,995   |
| 職域募金      | 5,079,788   |
| 街頭募金      | 17,329,837  |
| パッジ募金     | 42,276,000  |
| その他       | 4,486,855   |
| 合 計       | 441,261,479 |
| 目標額       | 610,000,000 |
| 達成率       | 72.3%       |
| 大阪市計      | 158,459,693 |
| 大阪市を除く各市計 | 245,140,157 |
| 町 村 計     | 16,278,419  |
| 本 部       | 21,383,210  |
| 合 計       | 441,261,479 |

